ひまり

一般社団法人 東員町文化協会 広報

第100号

令和6年9月発行














第31回春の文協まつり芸能祭より

特別寄稿

広報誌100号に寄せて



会長 大貫 正博

平成元年に東員町文化協会が発足し、広報誌第1号が10月15日に発行され、今年100号を発刊することができました。誠に感慨深く、広報誌編集に関わっていただいた諸先輩方の努力に感謝し、町民文化の発展と歴史の重さを感じます。

初めの頃は、B5の6頁でしたが、A4の4頁となり、平成14年に社団法人格を取得してからは表裏がカラー化して頁数も増え、全カラー化で16頁へと進化していきましたが、現在は12頁全カラーで発刊しています。文化協会の活動内容や催事案内と報告、そして団体や代表の紹介等、また北勢地方の文化協会代表、功労者など様々な方々から原稿を頂き紙面を飾って頂きました。

特に猪名部神社の石垣宮司様には、「歴史よもやま話」で郷土の歴史はじめ我々の知らない貴重なお話を長きにわたり書いて頂き、大変ありがたく広報誌の重みをつけていただきました。

これまで寄稿頂きました皆様方と広報担当としてご協力して頂いた多くの関係者には心より感謝申し上げます。

東員町文化協会は、今後もより以上に活動の継続と発展を目指して参りますので一層のご理解とご支援をお願い申し上げ、100号に寄せてのご挨拶とさせて頂きます。

特集 特別寄稿から

（役職名は執筆された当時のものです）

特別寄稿　43号（平成16年6月号）

先進かつ画期的活動をこそ

（社）東員町文化協会　会長　三浦　信一

本年は、協会設立十六年、社団法人として2期目を迎え、協会の真価を問われる重要な時期に差掛かって参りました。

議論はありますが、文化の原点は人間の生まれてから死ぬまで学び続けるという本性にあると思います。この学び続けるということこそが人類の文化の源泉であり、人間の生命の尊厳であるともいえます。決して学ぶことは暇つぶしの生き甲斐論で云々されるものではありません。文化協会の会員の皆様はこの学びの精神に今ひとつ地域の文化を担う市民としての自覚に裏打ちされた方々であり、この志が（社）東員町文化協会の今日をあらしめているのであります。

いまや、予算を行政から奪取しての活動の時代ではありません。また、自らは何もせず、不満を延べ要求のみを声高に言いつのる時代でもありません。すべての資金のパイは限定され、減少しています。

これからは総てにわたり、市民による公平な組み替えの時代であります。東員町も例外ではありません。このような時代背景を踏まえて私ども文化協会は町民の皆様の支持を得て世に一歩を先んじて法人化致しました。又、文化祭に加えて本年より公民館講座の委託を受けました。これは他の市町村に比して、先進的であり、画期的なことであります。この活動と事業を是非成功させ、地方行政法改正に伴う18年度からの施設の民間委託に私どもが責任を持って応えられるように繋げていきたいと念願しています。

最後に今や時代も、環境も、地域の中も、住民も刻一刻変化しています。行政、町民、企業、その他関連の皆様は、今までは管理者、援助者、応援団でありました。しかし、私どもは現状況を切り開く上で信頼できる、公益を守るパートナーとして町内総ての皆様と互いに協力して行きたいと存じます。

この意志をご理解頂き全町民の皆様と会員の皆様のご理解と協力とをお願いいたします。

特別寄稿　44号（平成16年10月号）

土を焼く

陶芸家　清水　醉月

東員町の陶芸はいつから始まったか調べている内、当時の事を色々思い出しました。平成元年四日市の近鉄百貨店画廊にて個展を開催中、東員町長に陶芸教室の講師にとおさそいを頂きました。当時は文化センターの屋上で一坪程の小屋に小さな灯油窯だけが備えてありました。焼いていると窒息しそうな狭い所で作業をしておりました。その後現在の場所に新築移転し十分な教室になりました。当時の受講生の内何名かは現在も続けています。又、先に亡くなられた町長も第一期生でした。教室は30名が定員で初めの頃から10年程は受講希望者が多く抽選が続きました。現在までに四百人以上の方が受講された事になります。教室に入って身近にある焼物に興味が持てるようになった事が大きな喜びだそうです。

少し陶芸を考えてみますと文化、芸術作品から生活用品まで三重の地場産業でも有り巾広い部分を持ち合わせています。歴史的にも石器時代後半から道具として作られており何千年も地球上に残っていくものです。人生のあかし（記念）に、すばらしい作品を作り地中深く埋められたらいかがでしょう。

日本の陶芸の主たる発表の場（公募展）は、芸術会員が中心となっている日展、人間国宝が中心になっている日本伝統工芸展。その他に新聞社、県、市主催の陶芸展等があります。7月末に津の県立総合文化センターで「三重のやきもの展」が催され、二百点もの陶芸作品が展示されました。

東員町の皆様も出品頂きました御礼申し上げます。

略歴

日本工芸会正会員
伝統工芸士
三重県陶芸作家協会　会長
伝統工芸三重研究会　会長
四日市市南いかるが町在住

特別寄稿　85号（平成30年6月号）

性別にとらわれない生き方ができる社会を

三重県男女共同参画センター　所長　石垣　弘美

人は自分自身で性別を選んで生まれてくるわけではありません。生まれたときはみんな平等です。愛されて、祝福されて生まれてきます。

ところが、生まれてから性別による差別や不平等感があるのは社会のルールやシステム、そして人々の意識に問題があるのではないでしょうか。

私達の暮らしている社会は長い間、「体力的な力」のある男性が優位に立つ仕組みが続いてきました。技術革新に伴い、社会のルールやシステムは少しずつ変わり、多くの職業が希望すれば性別にかかわりなく就ける社会になってきました。

しかし、今なお、「男らしさ・女らしさ」といったジェンダー（社会的・文化的性別）や「男は仕事、女は家庭」といった男女の役割を固定的にとらえる意識が根強く残っています。そのことが、家庭や職場、地域社会においてさまざまな性別による格差を生む原因となっています。さらに、自分自身を無理にその価値観の「型」にはめようと考えたり、他者に強要したり、他者から強要されたりと、生まれた時の性別で生き方が制限されてしまっています。

少子高齢化社会の中で私たちの生活を取り巻く状況は変化してきています。その変化に合わせて自分たちの育った時代の性別による固定的な価値観に対する認識を「情報更新」することが必要です。

自ら選んでいない性別で生き方が決められてしまう社会ではなく、一人ひとりがお互いの違いを認め合い、尊重し合える社会、個性と能力が発揮できる社会にしていきましょう。

略歴

昭和31年　東員町生まれ
昭和54年　大学卒業と同時に三重県職員任用
現在　三重県男女共同参画センター所長

特集 私の文化考から

69号（平成25年2月発行）

文化の果実にもっと光を

慈恩山瑞応寺　住職　冨川　法道

晩秋から初冬にかけての風物詩の一つとして、民家の軒に吊るされた干柿がある。

「渋柿の渋がそのまま甘みかな」この名句、仏教では尽きることのない煩悩（渋）も、元を正せば仏心（甘み）の要因であると解釈。相反する煩悩と菩提（仏の悟り）とが究極は一つとする教義にも通じている。ただし、渋を甘みに変える為には、たっぷりと冬日に晒すのが必須の条件。日の光を当ててこそ、柿の旨みも増す。

ここで干柿の道理に重ねて、文化を論じるのは、いささかこじつけの感もしないではないが、地域の文化活動を発展させる手段として、埋もれた才能や、長年活動を続けて来た方々を対象に、個人、団体の別を問わず、その功績に光を当てることを提言したい。

たしかに、この地の特性として地味で控え目な活動を暖かく見守る姿勢も好感が持てる。中央に習い、華やかなスポットを当てることだけが芸術・文化の価値評価とは思わない。しかし、町や文協などから顕彰され、奨励されることで、また違った創作や上演の喜びが生まれ、資質も確実に向上するものと考えられる。

この不景気、税収減の時期に、なぜ文化支援か、と批判があることも承知。実際、バブル期に各自治体で設立された多くの文学賞を例にとっても、現在残り数ないのが実状。だが、このような時代だからこそ、町をPRし、広報する機会といえるのではなかろうか。

略歴
東員町生まれ
花園大学文学部卒業
元桑名市立図書館長
昭和57年　県文学新人賞
平成8年　日本エッセイスト・クラブ・ベストエッセイ賞
平成23年　一筆啓上賞大賞

72号（平成26年2月発行）

茶の湯でのお・も・て・な・し

茶道表千家　教授　柴山　祐貴子

東京オリンピックの開催が決まり、滝川クリステルさんの「おもてなし」スピーチ以来あちらこちらで、おもてなし、おもてなしと昨年の流行語大賞にも選ばれてしまいました

もてなし（もて成し）を辞書で調べると

① 客を取り扱うこと・・待遇
② 食事や菓子の御馳走・・・饗応
③ 身に備わったもの・・・身のこなし
④ 取り計らい・・・処置　とあります。

また、わび茶を大成した茶人千利休は茶道における「おもてなし」の教えを利休七則にまとめています。

① 茶は服のよきように点て
② 炭は湯の沸くように置き
③ 花は野にあるように生け
④ 夏は涼しく冬暖かに
⑤ 刻限は早めに
⑥ 降らずとも傘の用意
⑦ 相客に心せよ

この七つの教えから亭主は客人の為にあれこれ準備をします。

茶の湯で来客を招待することを茶事と称しますが、朝の茶事、暁の茶事、名残の茶事、夜咄の茶事、正午の茶事等々有ります。一年を通じて最も一般的な茶事は正午の茶事で、正午から始め懐石、濃茶、薄茶などで亭主は客をもてなし客は亭主をもてなし主客双方ゆっくりと一日を楽しみます。

また、「大寄せの茶会」といって、一服の茶を多数の方に振る舞うもてなしが一般的になっています。正座が苦手の方には椅子が用意され気軽に楽しんで頂けます。正式な点前など出来なくても充分に茶の湯を楽しめます。

是非ご自分流の茶でおもてなしをなさってみませんか。主客の楽しみが倍になる事でしょう。



略歴
昭和56年～　東員町公民館講座　茶道講師
昭和63年～　徳川美術館ボランティアの会に所属し活動
平成14年～　茶道表千家同門会愛知県支部役員

80号（平成28年10月発行）

清秋徒然

前東員町文化協会　副会長　南部　まり子

本年の中秋の名月は、近年になく心に響く美しさであり眠るまでの間幾度となく庭に降り月を眺めた。杵型の花入れには在りあわせの花、尾花、白の秋明菊に金みずひきを活け、家族と作ったお団子と、芋名月にちなみ里芋をお供えした。

昔は母たちが春はさくら餅を作り、秋は名月にお団子を作ってお供えしてくれた。残念ながら側で見てはいたが、伝わっていない。しかし今風をネットで調べてくれた。これがまた優れもので材料はご飯をお茶碗1、小麦粉大さじ2、砂糖大さじ2。ご飯をすり鉢などでつぶし、混ぜ合わせて里芋状にかたどり、熱湯で5分間ゆでる。タレなどをつけお好みで頂くという物。簡単でしかも材料が手近である。10月13日の栗名月にも再度作りたく思っている。

今日は、縁あって城山幼稚園、しろやま保育園の子どもたちとお月見のお茶会をした。自分たちで里芋をそだて、収穫し、里芋の葉っぱに雨を降らし傘代わり。アニメ「トトロ」になりきっている子供たちが可愛いかったとか。それから二日後ご準備も大変であったと拝察するが、小さな舞台に黄色く輝く月と紅葉、それを見上げるサツキとメイとトトロを配し9月生まれのお誕生会の後、箏の調べのなか子どもたちに小さなお茶会を開催した。お茶会を経た子どもたちは、お茶クイズと、ワクワクしながらのお月見泥棒に。

楽しいひとときでありました。

今夜は少しでもお月様に会えるといいね。

言葉をかけての中秋の名月。今年は一人の月でした。

文化協会を辞してから4年の歳月が経ちました。

東員町は七世松本幸四郎丈の出生の地であり、子ども歌舞伎を伝承しています。日々茶道も含め伝承の助力になればと考えています。平成元年設立と時を同じくして発行された協会の広報誌。今に続いて今号は80号とか。そのご努力に敬服致します。大袈裟ではありますが、当時の皆様と、世に出すためにはと一字一句悪戦苦闘した日々が元広報の一員として懐かしく私の宝物として心に残っています。

80号のご発行おめでとうございます。

略歴

松の会副会長（七世松本幸四郎丈を顕彰する会）
まつぼっくり博物館館長（松の会こども歌舞伎）
茶華道教授
東員町北大社在住

83号（平成29年10月発行）

詩吟を続けて三十年

池田　文夫

私が詩吟を始めてから早いもので三十年になりました。始めたきっかけは、定年後、近所の方に詩吟を勧めていただいた事によります。正直言って自分から進んで始めたものではありません。が、確かに当時漠然と、「将来を考えると、何か趣味を持った方が良い」とは思っていました。そんな時だっただけに誘いに乗ったと思います。

詩吟は漢詩に節をつけて大きな声で歌うものというくらいしか知識はありませんでした。第一印象は「やろう」とまでは思わなかったと記憶しています。

最初は先生の発声を懸命に聴き、真似をしようと無我夢中でしたので楽しむなどという余裕はありませんでしたが、年数とともに少しずつですが吟ずることを楽しむことが出来るようになってきました。

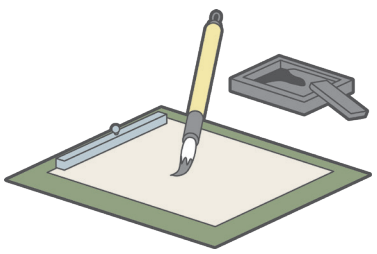
お腹の底から精一杯声を出す事は爽快であり、第一、健康のためにも良いことです。また、漢詩から教えられることが多くあり詩吟を続けてきてよかったと思っています。吟じる時は詩をよく理解して、情感を込めてと指導していただくのですが、いまだに満足にできません。

私はほかにも書道と陶芸を楽しんでいますが、こちらも極めれば極めるほどに奥が深く、出来上がった作品を見ると、そこから又、新たな意欲が生まれます。

趣味は楽しむことが一番大切なことであり、長続きさせる基です。

何か趣味を持つことは脳の活性化になるでしょうし、何より人生を豊かにしてくれます。

趣味は、齢八十九の私の元気の源です。



略歴

東員吟詩会会員
陶芸第一クラブ・書道第一クラブ　代表
元（一社）東員町文化協会理事　監事

86号（平成30年10月発行）

踊り継ぐよろこび

笹尾民踊クラブ　代表　野崎　豊淑虎（満）

ひとつの出会いを大切に多くのふれあいを求めつつ、新しい笹尾の地で新しい人間関係を築こうと「心の故郷」を讃える讃歌「笹尾音頭」「笹尾小唄」が住民の手作りで誕生しました。私達の唄として笹尾自治会実行委員設立によりレコード化されました。

その思いを受け継ぎ笹尾民踊クラブはあの日より四十年が流れ、「笹尾の踊り」を元気の源として「百まで踊ろ」を合言葉に、踊りの輪を人の和につなげています。踊りの大好きな人が集い、町内外の各施設への慰問が続く日々、多くのお声を頂戴する中、十五年続く施設もあり、入所の皆様と一緒に踊り、皆様からの熱い拍手と声かけに一人一人が大きな勉強を積ませていただいております。

笹尾夏まつりは三日間の講習会に笹尾コミュニティーセンターは満員状態に嬉しく和の広がりを感じます。盆踊りの選曲の中に「笹尾音頭」を毎年楽しんでいます。笹尾中央公園は二重三重と大きな輪が出来盛り上がる盆おどりとなります。素朴な心情が詞となり土の香りが旋律となって譜面に躍る「笹尾小唄」は（笹尾よいとこ…♫）と歌い出しのように、曲想も穏やかに流れ、踊る心もゆったりとしています。大好きな一曲、慰問先に届けます。「笹尾の踊り」として受け継ぎ踊り続け、伝えていくことが今を生きる私の責務だと思います。

そして、東員町には町民歌・東員太鼓ばやしの曲が生きています。

広く親しんでほしい。忘れないで!!と願うばかりです。



略歴

昭和58年4月　笹尾民踊クラブ　入会
平成5年4月　日本民踊研究会　入会
平成11年5月　日本民踊研究会　名取
平成13年5月　日本民踊研究会　準師範
平成15年5月　日本民踊研究会　師範
野崎豊淑虎　現在に至る

91号（令和2年7月発行）

短歌を詠む

金雀枝短歌社　会員　水野　洋子

短歌を学び始めて五十年近くになります。

・在りし日に夫の使いし広辞苑
　いたわり開くわが手に重く

という一首に感動しこの短歌を詠んだ知人に誘われた事がきっかけでした。

五十年というとかなりの年月の様に思えますが、ただただ毎月締め切りに間に合うよう纏めて来たと言えなくもないのが実情です。

因みに「短歌は締め切りの文学」とも言われるとか。

短歌を詠むということは、日頃何となく見過ごしていることを改めて眺めてみるということかもしれません。例えば、軒先を通り過ぎる猫一匹にしても、短歌に詠もうとすれば背景や状況などにも目がいき、時には虚構をまじえたりそこに物語性を持たせたりして一首に仕上げるのですから。ただ、時に、日常の些細な事や、ほんの一瞬ながら目に留まった自然の動きなどを上手く切り取って一首に纏められる事もあり、そんな時の快感は、言わば短歌を詠む醍醐味と言えるのかもしれません。

文学にしても芸術にしても感性を磨くことが大切な事とはよく聞く言葉です。スポーツの選手が日頃のトレーニングの大切さを説くように、感性もまた、日頃の心掛け次第で研ぎ澄まされたり衰えたりするのではないでしょうか。

日常の中でたとえ一〇分でも歌集を読むなり言葉を探すなりして、歌に繋がる時間を持つ様に心掛ける事の大切さを思うこの頃です。

略歴

元（一社）東員町文化協会　常務理事
中日歌人会　参与

註　私の文化考6名の方の肩書や略歴などは執筆された当時のものです。（そのまま掲載してあります）

広報委員会では、100号記念の特集内容を検討しました。創刊号から99号までの特別寄稿・私の文化考の中から、東員町文化協会の歩み、芸術・文化や現代社会を考える際に貴重な示唆を与えてもらえる特別寄稿3編・私の文化考6編を選ばせていただき、掲載させてもらいました。

2024（令和6）年度　一般社団法人 東員町文化協会通常総会報告

日時：令和6年5月11日（土）　午前9時35分～10時35分
場所：東員町総合文化センター第1・2講習室

議決権のある会員総数	487名
総会員の議決権の数	487個
出席会員数（委任状による者336名を含む）	369名
この議決権の総数	369個

（上記の委任状の内訳：葉書による議決権行使209名、電子による議決権行使127名）

定款第20条に基づいて、今回から電子による議決権行使を取りいれました。

以下の議案が本協会定款第19条に基づいて可決承認されました。

第1号議案	令和5年度事業報告承認の件
第2号議案	令和5年度収支決算報告承認の件
第3号議案	令和6年度事業計画（案）承認の件
第4号議案	令和6年度収支予算（案）承認の件
第5号議案	令和6年度役員改選（案）承認の件
第6号議案	会長専決事項委任承認の件

来賓紹介（順不同・敬称略）

東員町副町長	小川裕之
東員町教育委員会教育長	日置幸嗣
三重県議会議員	石垣智矢
東員町議会議長	伊藤治雄
東員町議会副議長	片松雅弘
東員町議会議員	伊藤まり
東員町議会議員	大谷勝治
東員町議会議員	三林浩
東員町議会議員	山崎まゆみ
東員町議会議員	島田正彦
東員町教育委員会社会教育課長	丸山太



令和６年度　役員名簿

（任期は令和8年の通常総会終結まで）

役職名	氏　名
会　長	大貫正博
副会長	川松由喜子
専務理事	平野義人
常務理事	中村厚子
常務理事	水原敏郎
常務理事	吉田幸子
理　事	大塚芳子
理　事	加藤八重子
理　事	川島絹枝
理　事	佐藤和寿
理　事	鷲見三重子
理　事	藤田廣子
理　事	水谷智子
理　事	木村真由美
理　事	服部せつ子
理　事	松野宏
理　事	井上尚子
理　事	伊澤修一

監　事	赤木昭一
監　事	木村英明

退任された理事	
	佐分親
	山下順子
	小川義文
	山田由紀子

（順不同・敬称略）

４名の退任理事さん、
ありがとうございました。

令和６年度　東員町文化協会事業計画

事業名	開催予定時期（令和6年4月～令和7年3月）
１）　総会	令和６年５月11日（土）
２）　東員町公民館講座（町委託・主管事業）	令和６年５月～令和７年２月
３）　東員町文化祭	令和６年10月26日（土）～11月３日（日・祝）
（町委託・主管事業）	10月29日（火）休館日
①展示	前期　10月26日（土）～10月30日（水）
	後期　10月31日（木）～11月３日（日・祝）
②大茶会	11月３日（日・祝）
③囲碁大会	10月20日（日）
４）　春の文協まつり	
①展示	通期　令和７年３月５日（水）～３月９日（日）
②芸能祭	３月16日（日）
③大茶会	３月９日（日）
④囲碁大会	３月20日（木・祝）
５）　理事研修会	令和６年６月～10月ごろ
６）　広報誌ひばり発行（年2回）	令和６年９月と令和７年２月



第31回 春の芸能祭

2024.3.17(日)
於:ひばりホール

第31回 春の芸能祭を終えて



わが町に春の訪れを告げる風物詩の如く、芸能祭を迎えます。

「伝承はこの国の誇りである」とあの方のお言葉通り、伝えゆく事の大切さを痛感する日々です。

皆様の拍手に支えられ舞台に努力を重ねています。

沢山のご声援を心より感謝申し上げ、来春（らいはる）にお会いする事お約束してーーー本日のご来場を心より御礼申し上げます。

芸能祭実行委員長

野崎　満

























文協まつり

期間　令和6年3月6日(水)～10日(日)
会場　東員町総合文化センター特設会場





第31回春の文協まつりを終えて

（気がつけばもう令和6年）今回、全体的にすっきりした展示になったと思いますが、反省点は多々あります。

検討、改善し次回に繋げたいと思います。

そして、出来れば会場に心地よい空間が生まれればと願っております。

ご協力いただきました関係者の皆様ありがとうございました。

展示プロジェクトチームリーダー
吉田　幸子

























目次

特別寄稿……1
特集……2
令和6年度通常総会報告……6
第31回芸能祭……7
第31回春の文協まつり（展示）……8
続々・歴史よもやま話……10
活動このごろ……11
令和6年度賛助会員……14
文芸作品……15
第57回東員町文化祭予告……16

第31回 春の

個人展示













公民館講座卒業作品



















続々・歴史よもやま話

其の七

猪名部（いなべ）神社
第二五世宮司
石垣 光麿

七世松本幸四郎・別邸「雀亭」を訪ねて

先日、埼玉県大里郡寄居町へ行ってまいりました。七世松本幸四郎の別邸「武州寄居町雀亭」跡地（雀宮公園）を一度は見ておきたかったからです。

東京から埼玉県のＪＲ川越駅まで行き、レンタカーで目的地「雀宮公園」に向かいました。荒川の清流沿いにある雀宮公園は江戸時代から風光明媚な景勝地として知られます。七世松本幸四郎は幼少期を思い出すのか、山の景色が好き、特に渓流が大好きで、秩父寄居を訪れると、即決でこの地に別荘を建てることにしました。



大正時代の「武州寄居町雀亭」

〈七世松本幸四郎の心のやすらぎの場〉

公園に入ると案内板には、「七代目松本幸四郎（幼名・秦豊吉）は、１８７０（明治３）年、伊勢国員弁郡長深村（現在の三重県員弁郡東員町）で誕生した」と出自から書き記され、この雀亭が１９１３（大正２）年に新築されたこと。その際、祝賀会の招待客は長瀞から寄居まで７㎞の船下りを楽しんで別邸下に着いたこと、「絶えず打ち上げらるる花火は山に響き荒川に伝わり、未曾有の盛大なりき」と当時の新聞に報じられたことなどが紹介されています。

園内には別邸を模した東屋が建てられていて当時の面影を残し、その南には、十代目松本幸四郎の座右の銘「守破離」の石碑が建てられています。

「守」・・・型を忠実に守り身につけること
「破」・・・良いものをとり入れ心技を発展させること
「離」・・・新しいものを生み出すこと

この座右の銘こそ七世松本幸四郎の原点で、「歌舞伎の世界」だけでなく「オリンピック」や「芸術文化の世界」を考える上でも、そして「まちおこし」を考える上でも「守破離」が出発点にあることを教えられます。

雀宮公園から玉淀河原に向けての遊歩道が走り、格好の散歩コースです。春は桜並木が延々と連なり、秋は公園のもみじが鮮やかで、幸四郎にとって公園から望む荒川や四季折々の景観は、言葉にできないほどの心のやすらぎの場であったにちがいありません。

帰りには、寄居町庁舎にお邪魔して担当の方にお会いすることができ、行政として別邸「雀亭跡」を後世まで残し伝えていきたいという熱い思いを伺い知ることができました。

〈渋沢栄一記念館へ〉

「雀宮公園」をあとにして、埼玉県深谷市血洗島の旧渋沢邸「中の家」「渋沢栄一記念館」へもうかがいました。「ついでに」などと言うと新しいお札からソッポを向かれるかもしれませんが、ここではわが東員町出身の偉人石垣隈太郎との縁を知ることもできました。

隈太郎は渋沢栄一と膝を突き合わせて、近代日本の経済を、日本国を、どう発展させるかと何度も語り合い、会合を開いています。「水産王」として農林水産を代表する隈太郎は国益のため渋沢との対談を行ったのでした。改めて隈太郎の器の大きさを思い知らされました。

活動このごろ

箏曲麗明社「廣翔会」

第20回新春六華苑祭

1月14日(日)
於　六華苑(和館)

新春六華苑祭に今年も出演し、箏独奏部、箏三部、十七絃の五重奏で「箏のための詩曲」を演奏しました。

協奏曲風な構成で華麗な中に深い抒情性をもつ日本伝統楽器「箏」のイメージを音楽詩としてつづられた作品を弾くことができ良かったです。



バトンメイツフェニックス

第49回全日本バトントワーリング選手権
東海支部大会

2月11日(日)12日(月・祝)
於　日本ガイシホール

東海支部大会が開催され、規定演技の部12名、選手権の部1名の選手が出場しました。それぞれの思いを胸に、精一杯演技することができました。

ご声援、ありがとうございました！

次に向けてまた頑張りますので、引き続き、よろしくお願いいたします！

員弁東部吟詩会

吟道関心流三重県本部
資格別競吟予選会

2月18日(日)
於　四日市市楠福祉会館

第1部（級）から第5部（大範師）に区分して競吟を行い、上位者は4月14日（日）三重県大会に出場する。

尚会場は津市アストホールで行った。

柴山茶華道教室

春の文協まつり大茶会

3月10日(日)午前10時～午後3時
於　東員町総合文化センター(和室)

おだやかな春の一日

今回は立礼棚（なごみ棚）と茶箱を愉しんでもらえたらと少し趣きを変えてのお茶会でした。

お客様も町内外はもとより県外からも多勢の方に来て頂きなごやかな雰囲気の中終えられた事に感謝しております。



東員短歌会

令和6年4月1日から
於　代表自宅

今年度4月より立ち上げた短歌会です。6月からは中日新聞社へ短歌作品の投稿も開始しました。

会員はそれぞれ他の文化芸術にも通じておりますので、他のイベント等への参加は今後も計画したいと思います。

活動このごろ

東員囲碁同好会

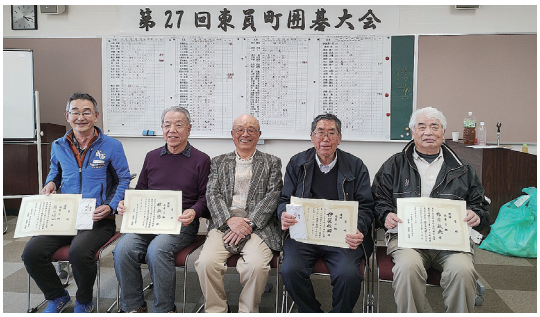
第27回春季東員町囲碁大会
3月20日(水・祝)午前9時30分～午後5時
於　東員町総合文化センター　2階

参加者　　116名

実力に合わせてＳ級（六段以上）23名、Ａ級（四段～五段）32名、Ｂ級（二段～三段）32名、Ｃ級（級位～初段）32名の出席があり、スイス方式で4回戦で戦ってもらった。

優勝、準優勝、3位さらにＡ賞，Ｂ賞、Ｃ賞を作り喜んで頂きました。





成績結果

クラス別	順位	氏名	市町名
Ｓクラス（六段以上）	優勝	伊藤　俊昭	桑名市
	準優勝	杉野　　彰	鈴鹿市
	三位	堀田　富雄	菰野市
Ａクラス（五～四段）	優勝	伴　　政博	鈴鹿市
	準優勝	林　　清文	鈴鹿市
	三位	伊藤　文之	いなべ市
Ｂクラス（三～二段）	優勝	杉浦　敏夫	東員町
	準優勝	二上　哲也	桑名市
	三位	河原　芳隆	東員町
Ｃクラス（初段・級位者）	優勝	成田　順一	東海市
	準優勝	葛山　　勲	いなべ市
	三位	松岡　　洋	いなべ市

岡田水彩画グループ ぐるーぷ美茂座

「ぐるーぷ美茂座」作品展
5月9日(木)～5月16日(木)
於　川スミメガネ本店ギャラリー

岡田水彩画教室「ぐるーぷ美茂座」会員11名（男5人、女6人）による水彩、色鉛筆、パステル画を2年ぶりに展示。



東員フォトクラブ

撮影会
6月12日(水)
於　滋賀県甲賀市水口町

メンバー全員で撮影行を実施。

水に沈む鳥居と睡蓮の花、斜光差す光芒の滝、岩に彫った摩崖仏などを撮影し、後日、例会にプリントを持ち寄り全員で話し合った。



活動このごろ

清和会

清和会作品展
5月29日(水)～6月2日(日)
於　ギャラリー員

ギャラリー員にて清和会作品展を開催いたしました。会員12名が、軸、額17点を展示しました。

沢山の来場者があり、盛況のうちに終了いたしました。



民謡寿会

スマイルフェスタ2024
6月16日(日)午前10時～午後1時40分
於　北勢市民会館さくらホール

いなべ市市民センター主催芸能発表会（13団体）





笹尾吟詩会

関心流全国大会、全国吟詠中部大会
7月14日(日)、7月15日(月・祝)
於　大阪泉佐野市、愛知県刈谷市

吟道関心流、日本吟剣詩舞連盟に出場。コロンビアレコード吟詠部などのコンクールに出場しています。



笹尾民踊クラブ

踊祭
〝おどろんさい〟
7月15日(月・祝)
於　イオンモール東員

イオンモール東員10周年記念行事から〝祭〟をテーマとした踊ることに思いを寄せる人々に、盆おどりも無くした今、光を与えてくださいました。

タイトル踊祭〝おどろんさい〟の開催です。地域の支えと人とのつながりの大切さみんなで楽しみたいと願っています。



令和6年度 賛助会員

（令和6年7月31日現在）

ご支援ありがとうございます

法人賛助会員（地区別50音順）

穴太
伊藤土建㈱
医療法人 大仲会 大仲さつき病院
㈱巧建社
医療法人 康誠会 東員病院

大木
岩田歯科医院
豊通ヴィーテクス㈱

笹尾東
㈱リード・ガイロビカ

城山
㈲中部キカイサービス
モリワキ薬局
和気国際特許事務所
のじり内科消化器内科

瀬古泉
㈲廣嶋製作所

鳥取
桑名三重信用金庫 員弁支店
みやざわ歯科医院

筑紫
㈲サトー工業

南大社
一色建設㈱
㈲中山モータース

山田
㈱ADEKA 三重工場
カフェレスト㈱ ラフィーネ
大起産業㈱
㈱みつわポンプ製作所

六把野新田
美容室 APPEAR
伊藤商事㈲

宅老所 紫苑
みどり歯科医院

その他（三重県）
（一社）いなべ市観光協会
音楽堂楽器
㈱カキトー
共栄堂印刷㈱
㈱山水園
㈱タチバナ製作所
三重県舞台管理事業協同組合
三重交通㈱桑名営業所
茶道具 遊芽屋
㈱レイステージ桑名

その他（愛知県）
堀田新五郎商店

個人賛助会員（50音順）

石垣智矢
伊藤治雄
伊藤真実子
大井弘久
大谷勝治
岡野譲治
片松雅弘
加藤八重子
川島浩
川瀬隆一
川松由喜子
島田正彦
田中正徳
種村均
中山万千代
南部まり子
南部豊
日置幸嗣
平野義人
広田久男
三浦信一
三宅徹也
水谷公孝
水谷隆
山崎まゆみ
渡辺良男

東員短歌会　詠草六首

○子雀の村を出たる長男の見送る母の姿小さし
山川ちあき

○前後・左右スペースサンダーに身をゆだね
団十郎ごと見得をきりいる
山田百合子

○深夜帰宅児のなく声が聞こえてる月下のさくら無音の世界
中村　秀明

○カーバイト持ちて夜川の漁にゆく叔父を頭に寝込む魚を
出口　幸男

○ニューヨーク五番街に
K・MINAMOTOスティックパイは整列をした
山田由紀子

○イヌナシの一樹に白き花溢れまたなきふたりの時を逝かしむ
太田　彰子

しゃくやく俳句会

銃弾のごとき雨脚沖縄忌
国枝　隆生

自註　沖縄忌は六月二十三日で、沖縄戦の戦没者を追悼する慰霊式典が行われる。今年、この日は土砂降りの雨だった。それは銃弾の雨のように強烈な印象を受けた。

母の声聞こえてきさう夕花野
国枝　洋子

自註　野草の好きな母に連れられ、野山に親しんだ子供の頃、草花の名前も沢山教えて貰った。花野はかけがえのない母との思い出である。

伊勢湾に処暑の白雲動き出す
水谷　仁士

自註　処暑は二十四節季の一つで、八月二十三日頃は暑さが一段落するとされる。この日、伊勢湾からの雲が一斉に動き出したようで、その場から離れられませんでした。

春障子開けてやはらか風の道
荻野　恵子

自註　冬の間、閉め切っていた障子を開けたところ、ほどよい風がすうっと通り抜けた。身の内にも心地よく、確かな春の兆しを覚えた。

第57回 東員町文化祭

町民の皆さんや公民館講座受講生、(一社)東員町文化協会会員などの作品展示と様々な文化活動の発表を行います。
また学校作品展として小学生・中学生の作品も展示されます。
お誘い合わせのうえ、ご来場ください。

期間　令和6年10月26日(土)～11月３日(日・祝)
場所　東員町総合文化センター
※10月29日(火)は休館日です。

■主催　東員町・東員町教育委員会
■主管　一般社団法人 東員町文化協会
■お問い合わせ　(一社)東員町文化協会　☎76－7711

オープニング式典

10月26日(土)
時　間　13：00～
場　所　東員町総合文化センター 玄関前
＊式典終了後、飛龍東員太鼓による太鼓の演奏

作品展

期　間　10月26日(土)～11月３日(日・祝)
10月29日(火) は休館
前　期　10月26日(土)～10月30日(水)
後　期　10月31日(木)～11月３日(日・祝)
時　間　9：00～17：00(各期とも初日は13：00～最終日は16：00まで)
場　所　東員町総合文化センター 特設展示場

展示内容
●一般応募と文化協会会員作品
絵画・陶芸・短歌・俳句・書道・生花
服飾・手芸・工芸・写真・その他
●公民館講座卒業作品
(展示内容は作品応募状況により変更になる場合があります)

学校作品展

期　間　10月26日(土)～11月３日(日・祝)
※10月29日(火)は休館
時　間　9：00～17：00
場　所　東員町総合文化センター 特設展示場

大茶会(抹茶)

文化協会自主事業

日　時　11月３日(日・祝)
10：00～15：00
場　所　東員町総合文化センター
１F第２研修室（和室）
参加費　茶券　お一人様　500円（お菓子付き）
（前売券は文化協会事務局で販売）当日券あり

囲碁大会

文化協会自主事業

日　時　10月20日(日)10：00～
(受付9：00～)
場　所　東員町総合文化センター内
参加費　一般　2,000円
文化協会会員　1,000円
高校生以下　1,000円
(昼食付、当日会場でお支払いください)
問い合わせ先　伊藤☎090-7615-5115

(広報委員)
編集担当　川松　由喜子
木村　真由美
平野　義人
ホームページ担当　照井　亮平

発行　一般社団法人 東員町文化協会
三重県員弁郡東員町山田1700
東員町総合文化センター内
TEL　0594-76-7711
FAX　0594-76-2888
E-mail　info@toin-ca.org
https://www.toin-ca.org

印刷：冊子印刷ドットコム

編集後記

広報誌100号発刊にあたり、4頁増にして特集記事を掲載しました。過去の「特別寄稿」や「私の文化考」から、一般社団法人東員町文化協会の歩みや文化活動に携わっている方・外部の有識者の方の文化観・社会観、さらに文化行政についての提言など示唆に富むものを広報委員会で選びました。割愛した写真以外は、そのまま掲載しましたことをご了承ください。

最後に、今後も本協会の「文化及び芸術の振興に関する事業を行う」ための広報活動をさらに推進していきたいと思います。

会員・賛助会員、町民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平野　義人